

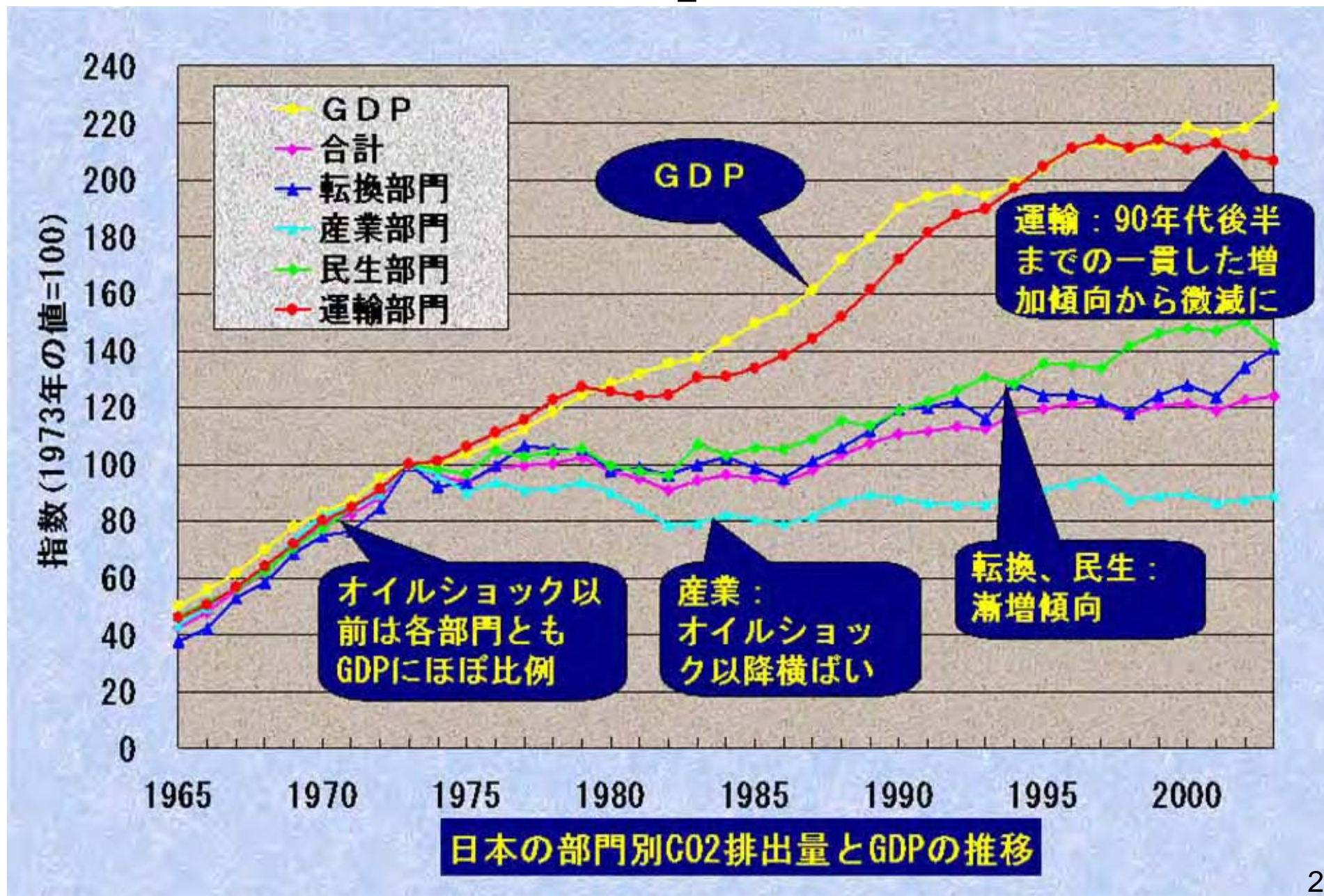
# 脱温暖化2050社会の 交通と都市に関する検討状況

2007.01.26

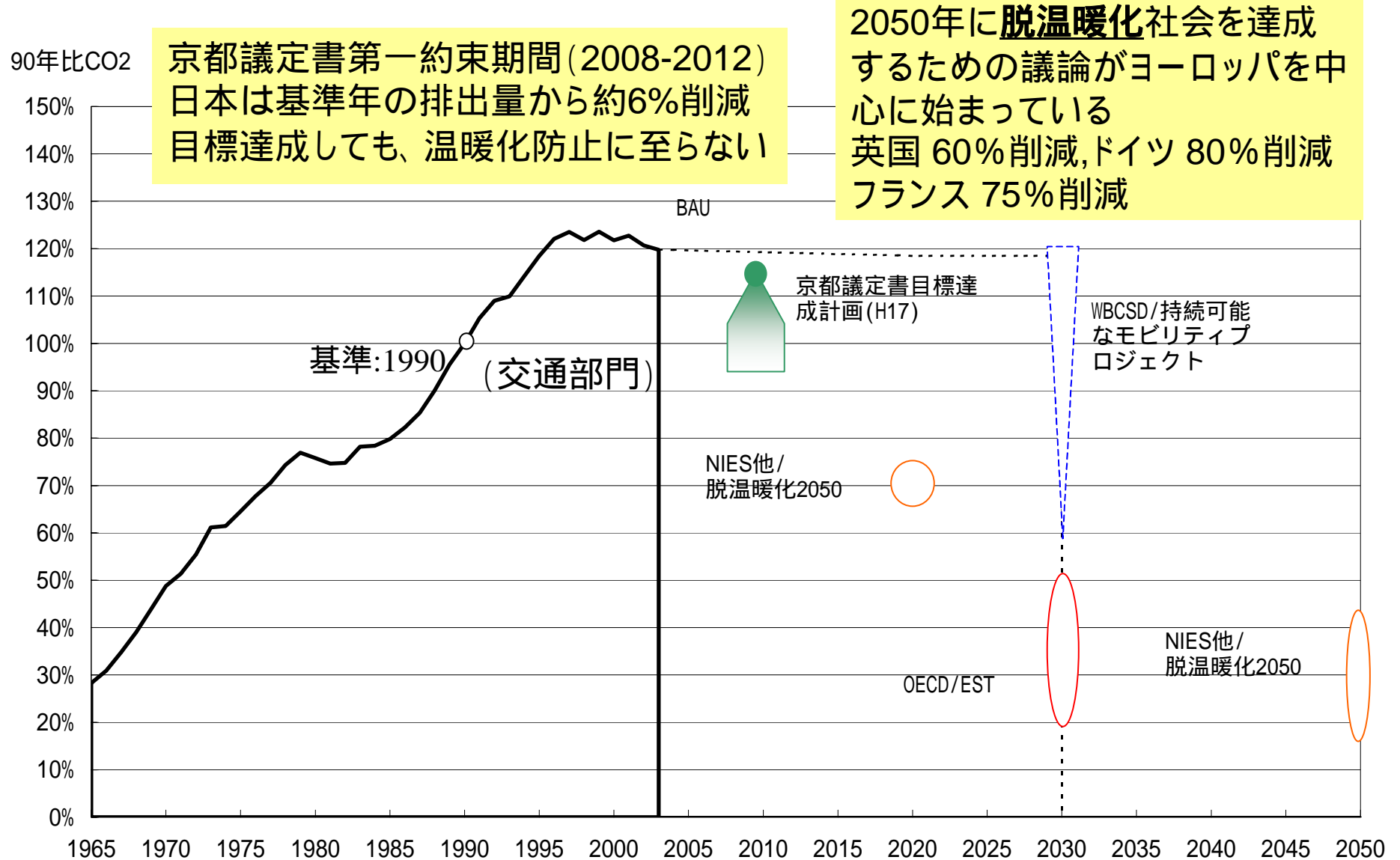
国立環境研究所 松橋啓介

matuhasi@nies.go.jp

# 交通部門からのCO<sub>2</sub>排出の近年の傾向



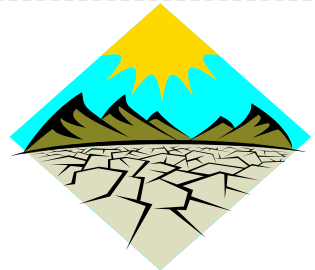
# 中長期的な温暖化対策へ



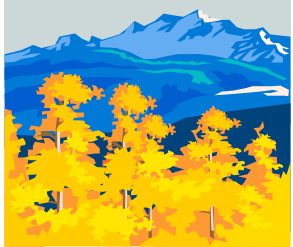
# 深刻な温暖化影響を回避するには、 温度上昇を2度以内に抑える必要

## → 国際的な共通認識へ

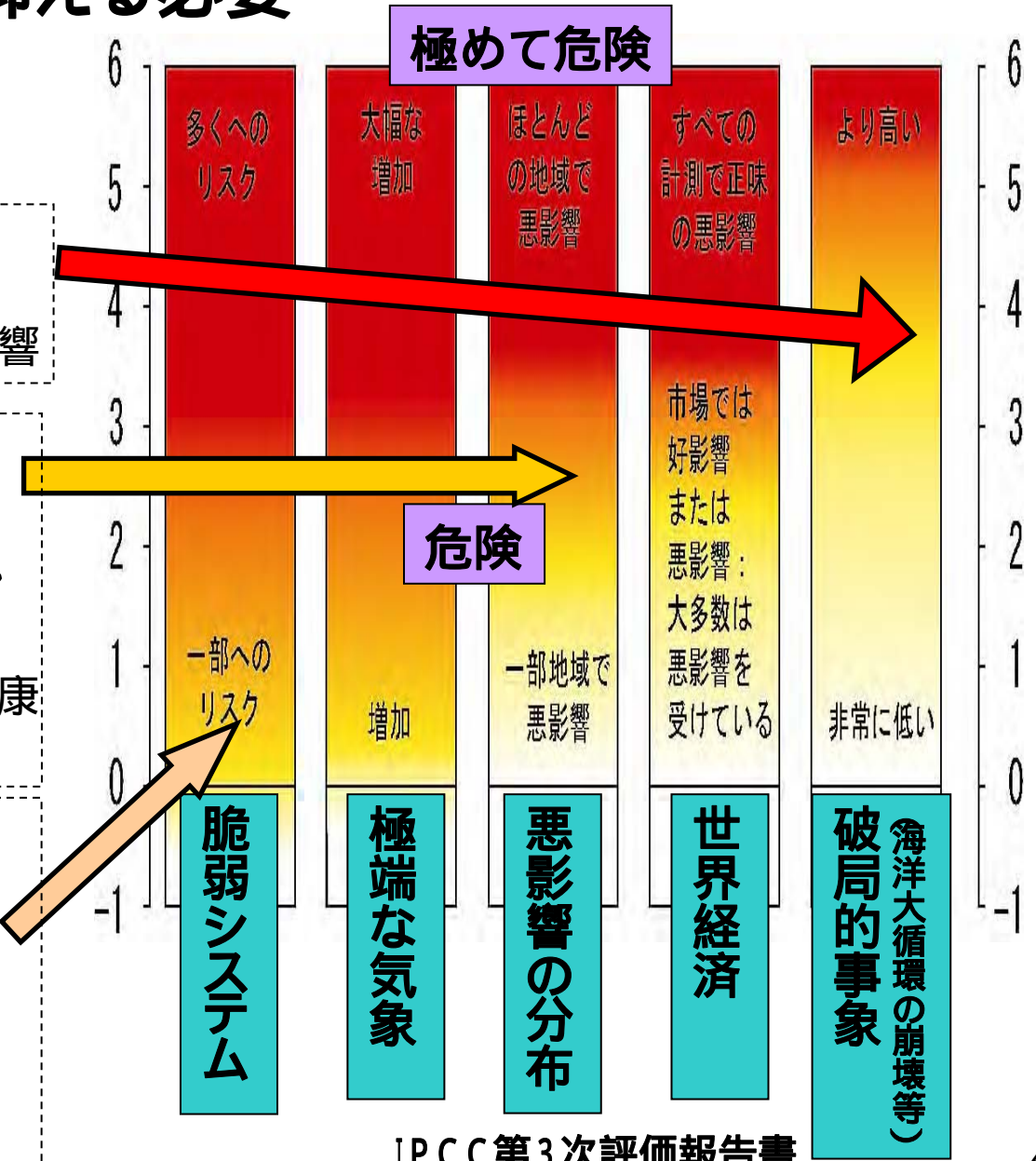
気候の様相の変化、海洋大循環の停止、南極・グリーンランド氷床の崩壊等の、大規模かつ不可逆な影響

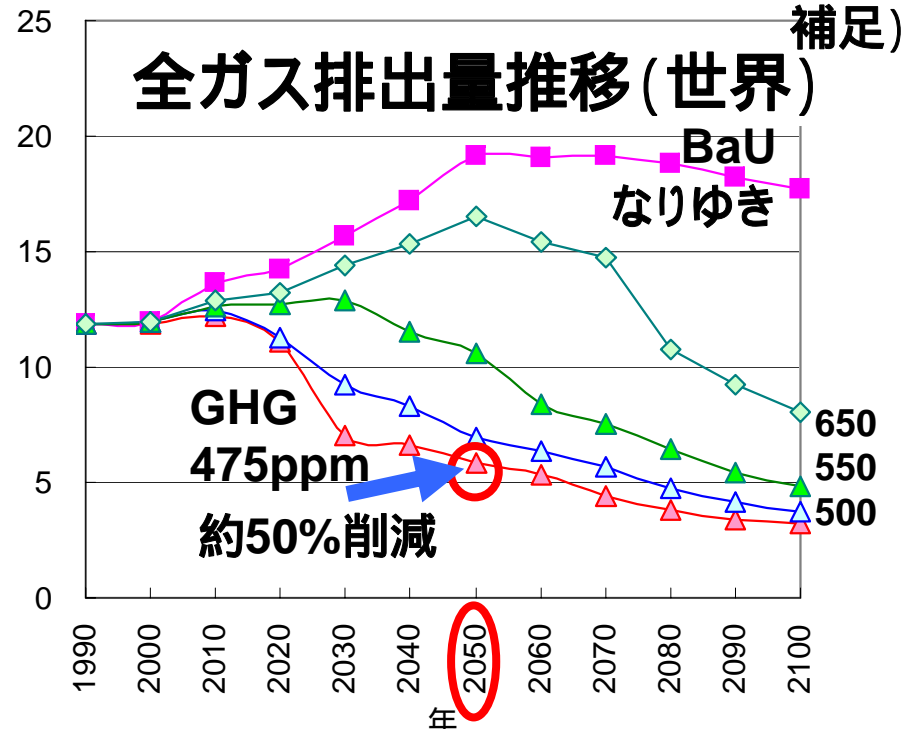
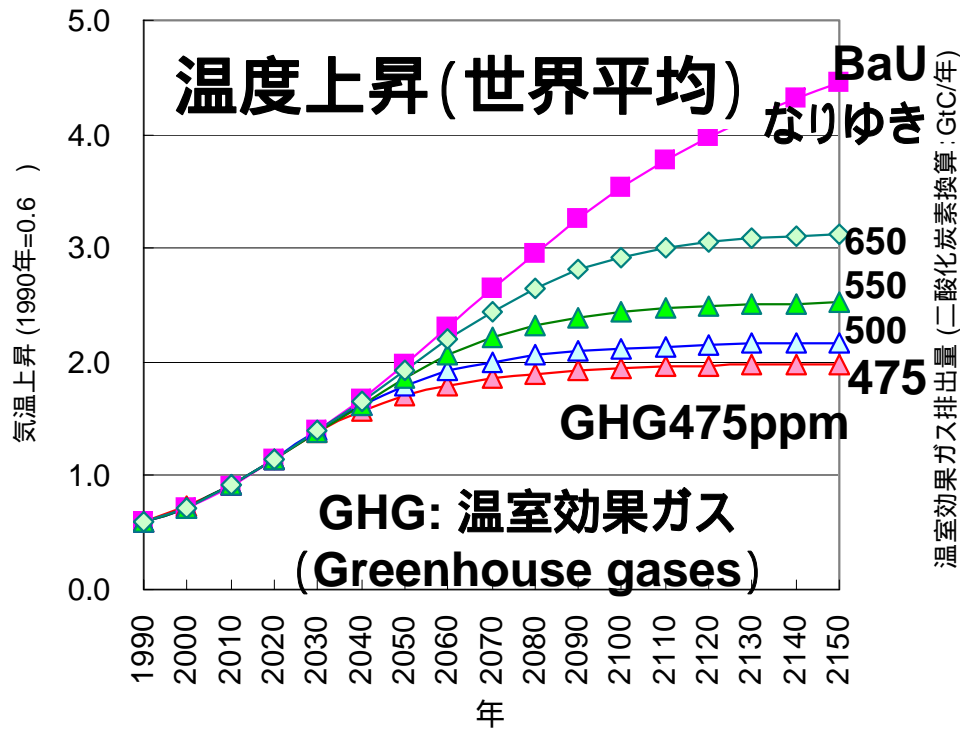


水文・水資源、農林水産業、人の健康などへの影響が多地域で発現



植生変化、サンゴ礁の白化などの脆弱な生態系への影響





■ BaU   
 ▲ GHG-475ppm   
 ▲ GHG-500ppm   
 ▲ GHG-550ppm   
 ◆ GHG-650ppm

Greenhouse gasesとは  
 温室効果をひき起こす  
 ガス:CO<sub>2</sub>以外にメタン、  
 亜酸化窒素、フロンなど

AIM/Impact[policy]  
 モデルによる結果  
 脇岡(NIES)他

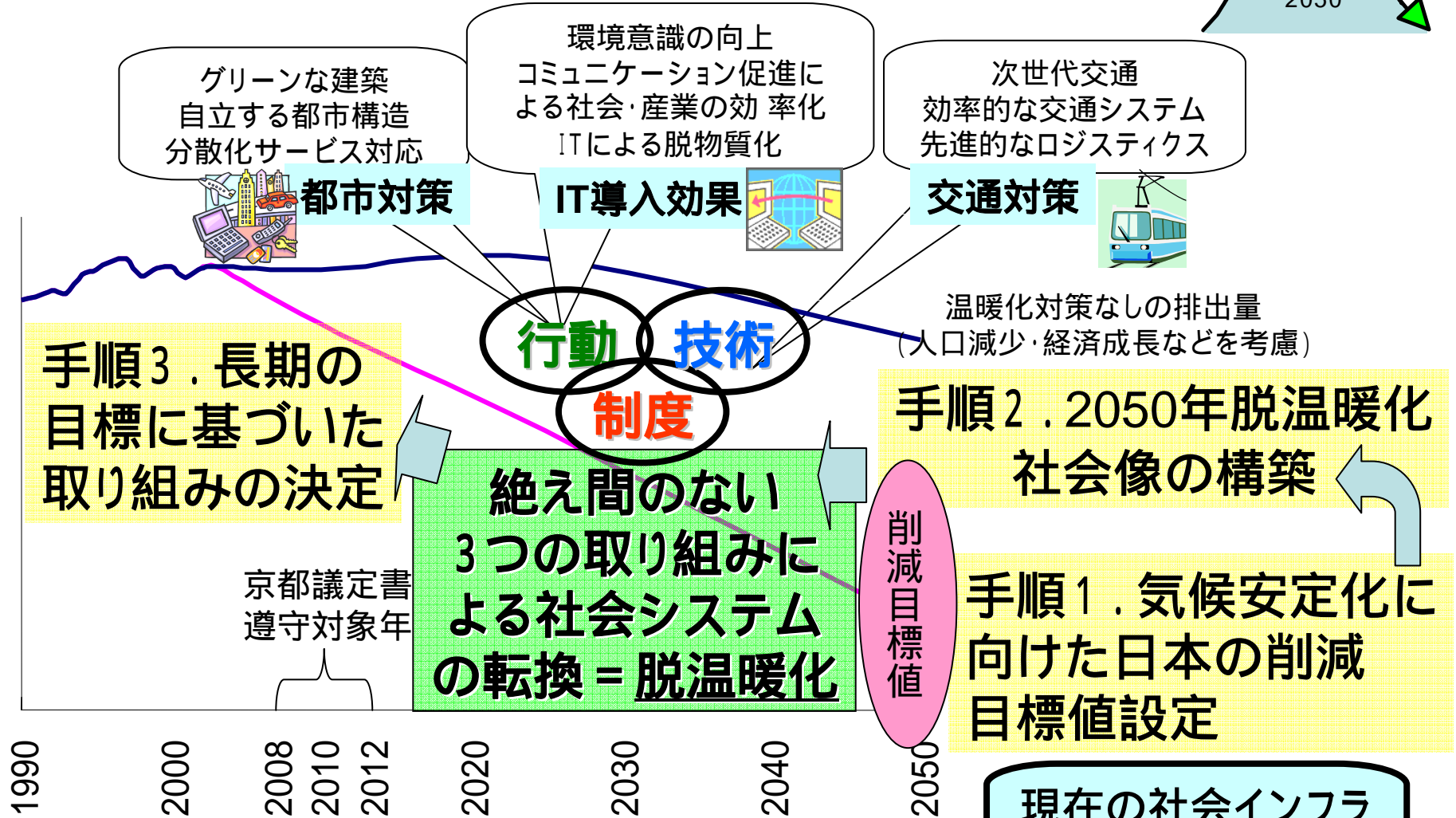
気温上昇を2 以下に抑えるには、大気中  
 GHG濃度を475ppm以下にする必要がある  
 •2050年のGHG排出量を世界全体で、1990年  
 レベルの50%以下に削減する必要がある  
 •日本はそれ以上(60-80%)の削減が求められる  
 可能性。欧州諸国(英国60%削減、ドイツ  
 80%削減、フランス75%削減)でも検討。

# 日本 脱温暖化2050研究プロジェクト(2004-2008)

(約60人の研究者が協力して2050年までの対策を研究)

脱温暖化  
2050

日本における温室効果ガス(GHG)の排出量



研究プロジェクトホームページ: <http://2050.nies.go.jp>

# 脱温暖化2050プロジェクト 交通T (時間軸からみた研究の全体像)

(1)リードタイムを考慮した新技術導入効果の評価と政策手段に関する研究

(2)バックキャストによる長期削減シナリオの策定に関する研究

